

1. 提案の背景

(1) イノシシによる獣害の状況

- 近年、イノシシによる農作物の被害が増加している。九州内の獣害 24.4 億円（平成 18 年度九州農政局調べ）のうち、約 8 割の 20 億円がイノシシの被害によるものであり、被害内容は、稲、果樹類、タケノコ、野菜類の食害や踏み倒しが多い。



- 被害県別にみると、福岡県が 4.3 億円、熊本県が 3.9 億円、長崎県が 3.8 億円、佐賀県が 3.7 億円であり、九州全体で全国の 36% を占め、その対策は大きな課題となっている。
- 中山間地域の農家では、獣害のための電気柵や防護柵の設置投資費が追いつかず、稲作をやめてしまうところも出てきている。
- ニュースでも、登山中にイノシシに襲われた登山客や、住宅地や市街地へのイノシシの出没がよく話題として取り上げられている。（イノシシの成獣は体重約 70kg。それが 40km/h の速度で突進してくるそうだ）

(2) イノシシによる獣害対策の現状と課題

- 九州内で、組織的にイノシシの駆除と食肉加工に取り組んでいるところもある。

福岡県：みやこ町有害鳥獣加工施設、添田町食肉処理加工施設 佐賀県：武雄市イノシシ課（食肉加工場あり）

- これらの自治体に、どのように駆除したイノシシの処理を行っているかヒアリングしたところ、どこも食肉加工に留まり、イノシシの皮を廃棄している状況であった。
- 食肉への加工はイノシシを仕留めた後、40 分以内に血抜きを行う必要があり、その販路も限られているため、現在のところ、わずかな数しか食肉加工処理は行われていないようである。食品衛生条例の問題もある。
- イノシシの皮を廃棄するにも山中に穴を掘って廃棄されている。ある自治体では、イノシシの皮を山中に埋めるためだけに年間約 300 万円の費用を負担しており、埋める山も無くなってきたとの話で、自治体も非常に困っていると感じた。

- ・イノシシの食肉加工は行われているため、それらの継続・発展に期待しつつ、ここはひとまず、捨てられているイノシシの皮に焦点を当て、皮の活用法を検討することを課題として挙げる。

エコレザーとは：日本皮革産業連合会が国内初のエコレザー基準を設け、環境に配慮した革の生産に取り組み、国内のみならず海外に発信する新しい革のブランド

-

2. 提案の内容

上記の食肉加工のみならず、今まで廃棄されていた原皮を活用し、産業にする。

もったいない精神で「害獣」を「益獣」に！

- ・駆除で獲ったイノシシは、商品化して売らないともったいない。山の神様への冒瀆？
- ・もったいない精神で、これまで廃棄処分（多くは山中に埋める）されていたイノシシの原皮を革に鞣して地域の特産として製品化する。
- ・イノシシ革は、丈夫で摩擦に強く、軽くて通気性も良い。表面に小さな3つの毛穴があることが特徴。イタリアではイノシシはサラミなどの食肉としてだけでなく、イノシシ革をチンギャーレと呼び、高級皮革として製品化されている。（例：プラダのバッグ・スカート、グッチの靴・財布・バッグ等）

第1ステップ：イノシシ革を鞣す

①イノシシを箱ワナで捕獲



画像出展：

（財）自然公園財団雲仙支部HP

②原皮を剥いで塩漬けし、革の鞣し工場へ送る



※中山間地域の連携により、原皮を100枚単位で集める（小ロットでは鞣し状況に偏りが生じ、品質確保が困難）

③鞣し工場でイノシシ革に加工



イノシシ革が完成！！

日本の豚革鞣しの技術で、生物学的に近似種のイノシシにおいても革を鞣して製品化する事は可能である。ただ、一貫した流通ルートの構築する事が困難であるため、鞣しは可能でも製品化が難しかった。。

第2ステップ：イノシシ革を使って商品化する

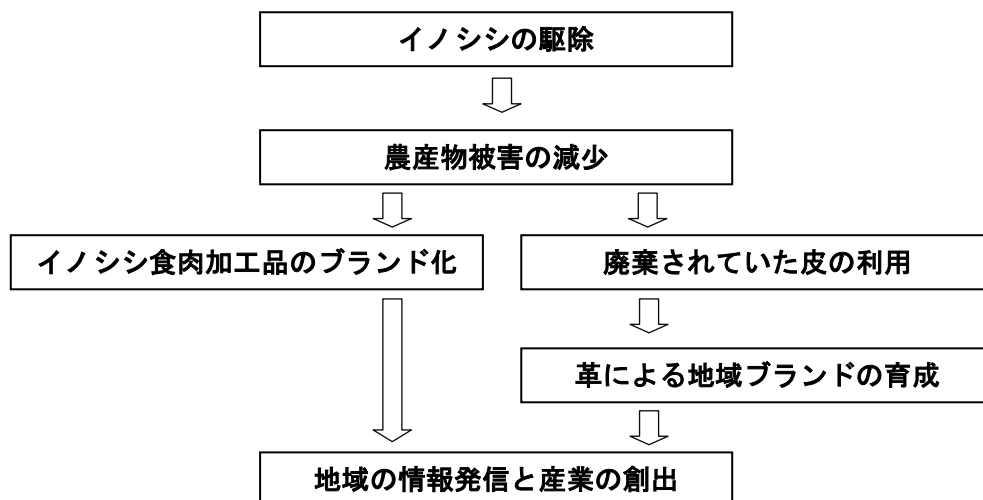
- ・家具製造業と連携し、県産イノシシ革のデザインソファやスツールを提唱する。

- イノシシ革の革小物類は、イノシシを捕獲した中山間地域の住民達で地場産業として製品に加工する。加工技術を指導する職人を派遣し、商品開発を行う。また、商品販売ルートの確保と製品のブランド化を通じて、地場産業として利益を生み出すシステムをつくる。
(利益を獣害対策費に充てることも可能である。)

第3ステップ：イノシシ革をブランド化する

- イノシシ革をエコレザーとして登録。名称を付けてブランド化するとともに、地元デザイナーを育成し、国内外のマーケットに販売するルートをつくる。
- ありとあらゆる手段を講じて、イノシシ革ブランドの認知度向上を図る。
- 社団法人日本皮革産業連合会の国内皮革産業の活性化と優秀なデザイナーの発掘及び育成を目的とした「JAPAN LEATHER AWARD」に出展する。

<イノシシ革の展開イメージ>



3. イノシシエコレザープロジェクトの効果

- 駆除したイノシシによる地域特産物の創造。
- 地場産品の売り上げを獣害による農産物被害対策に充てることが可能。
- 地域ブランド化により、獣害に困っている山里の農家や自治体をバックアップ。
- 獣害に悩んでいる地域における中山間地のネットワーク形成。

4. ITM 計画の総論

- ITM 計画は、中山間地でのイノシシ駆除の大きな枠組みの中の一つ。
I イノシシ T つかおう M もったいないから 計画
- ネットワークを構築し、本来廃棄されていたものを集積させ、まちの産業にする。
- 小さなことでも、もったいないと感じることを積み重ねて、知恵を出し合いみんなで問題を解決する。